

角館

のお祭り

令和6年 9月7日(土)・8日(日)・9日(月)

◆お祭りの解説

山車(曳山、やま) 祭の「余興」として出されたものですが今では祭の主役のようになっています。古くは薬師堂の祭にいたったといわれています。

上りやま(道中) 目的地で参拝、お見せした後の帰りの曳山をいいます。囃子は、ベレレ、ベレレと軽いテンポで、道中ともいいます。

交渉(こうしょう) 曳山が丁内に入るとき、曳山と曳山が出合ったときに交渉といって黄色いタスキをかけた曳山の交渉員が挨拶と話し合いをします。曳山では重要な役目で交渉状況により道をゆずることになります。

張番(はりばん) 各丁内に設置され、神社と薬師堂の御輿を迎えて町内の安全、加護をお祈りするとともに、曳山の出入りの許可や町内でのトラブルの交渉にあたります。各丁内とも年番組織で運営をしています。昔は自丁内の曳山の動きもここから指揮しました。

七日 午後四時、神明社参拝、十八台の曳山が一斉に神明社へ

八日 午前十時、各曳山が武家屋敷通りに入り佐竹北家ご当主へお見せにまわります。合わせて、飾山囃子コンクールも行われます。

九日 午後六時、町内七ヶ所で観光やまぶつつけ(次頁別表)、薬師堂参拝のほか各曳山とも町内に見せながら自由に動きます。午前十時、薬師堂参拝の曳山、あるいは町内に見せる曳山など。夜八時頃、夕食後、各曳山は偵察員を出し作戦を練りながら曳山ぶつつけの相手はどこか、一番スリルに富んだ時間となります。十日未明まで続きます。



<p>味噌・醤油・漬物 安藤醸造</p> <p>本店 / 仙北市角館町下新町27 TEL0187(53)2008 FAX0120(980)080</p> <p>北浦本館 / 仙北市角館町雲然山崎42-1 花上庵 / 仙北市角館町表町下丁8</p> <p>http://www.andojiyozo.co.jp</p>	<p>田沢湖 角館 観光協会</p> <p>TAZAWAKO KAKUNODATE</p> <p>https://tazawako-kakunodate.com/</p>	<p>仙北市田沢湖観光情報センター フォレイク 〒014-1201 秋田県仙北市田沢湖生保内字男坂68 TEL.0187-43-2111 FAX.0187-43-2077</p> <p>仙北市観光情報センター 角館駅前蔵 〒014-0369 秋田県仙北市角館町上菅沢394-2 TEL.0187-54-2700 FAX.0187-54-1755</p> <p>西木観光案内所 〒014-0516 秋田県仙北市西木町小山田字八津249-1 TEL.FAX.0187-42-8480</p>	<p>好きな蒸留酒を樽で熟成。 穂樽</p> <p>田鉄産業 有限会社 仙北市角館町下菅沢110-1 TEL.0187-54-4011</p>	<p>お祭りに関するお問い合わせ</p>
<p>株式会社 おもてなしせんぱく 秋田県仙北市角館町西長野古米沢 30-19</p> <p>花葉館 TEL 0187-55-5888</p>	<p>西宮家 TEL 0187-52-2438</p> <p>クリオン TEL 0187-47-2010</p> <p>東風の湯 TEL 0187-43-2133</p>	<p>くらに合ったちょうどいい あべ</p> <p>●食べきりでちょうどいい ●美味しいものを食べたいだけ</p> <p>グランマートは、あべえい商品をご提案しております。</p>	<p>ワンダーモール 仙北市角館町上菅沢442-1 TEL0187(54)1600</p> <p>食料品売場 朝9時～夜10時まで営業 衣料品売場 朝9時～夜9時まで営業</p>	<p>キ7コト</p> <p>広告掲載のお問い合わせは、 オンライン相談で解決できます。</p> <p>相乗り予約は、こちらから</p> <p>Jeki 県フェアール東日本企画 秋田支社</p>
<p>角館 さい屋</p> <p>仙北市角館町駅通り TEL 0187-54-2367</p>	<p>秋田 角館 INAHO</p> <p>無添加のこだわり</p> <p>絆・稲穂 食愛いなほ</p> <p>http://ryudo.inahono.com E-mail: info@inahono.jp TEL. 0187-54-3311</p>	<p>仙北市商工会</p> <p>〒014-0327 秋田県仙北市角館町上新町43-1 TEL 0187-54-2304 FAX 0187-54-2305</p>	<p>元祖極極の比内地鶏親子丼が食べられる店</p> <p>桜の里 本店 くら</p> <p>〒014-0325 秋田県仙北市角館町東藤澤丁9 TEL0187-54-2527 FAX0187-53-3767</p> <p>〒014-0323 秋田県仙北市角館町横町27 TEL0187-53-3003 FAX0187-53-3767</p> <p>http://www.sakuranosato.net</p>	<p>角館武家屋敷・青柳家</p> <p>〒014-0331 秋田県仙北市角館町下丁33 TEL.0187-54-3257</p> <p>開館時間(年中無休) 9時～17時 入館料(税込)大人500円 高校生・中学生300円 子ども200円</p>
<p>仮設工事・着・土木工事 菅原建設 有限会社</p> <p>代表取締役 菅原 清平</p> <p>仙北市角館町雲然上町屋158-11 TEL 54-4338 FAX 55-4310</p>	<p>彫刻造形 木工木型 角館 きた</p> <p>Kakunodate Kigata</p> <p>kakunodate.com</p>	<p>角館皮革細工センター たてつ</p> <p>KABAZAIKU</p> <p>お土産処、史料館、着物体験</p> <p>〒014-0318 秋田県仙北市角館町中町25 TEL.0187-55-1320</p>	<p>仙北の地酒 雑子</p> <p>ヒデオシ</p>	<p>青柳家は歴史を体感できる「文化財へつ連北」</p> <p>角館武家屋敷・青柳家</p> <p>〒014-0331 秋田県仙北市角館町下丁33 TEL.0187-54-3257</p> <p>開館時間(年中無休) 9時～17時 入館料(税込)大人500円 高校生・中学生300円 子ども200円</p>
<p>手打らそば お祭りは冷たい肉そば 野の花庵</p> <p>角館町上野139-4 TEL0187-54-3787</p>	<p>西部 スガワラショップ</p> <p>清酒 西部若者 販売元</p> <p>TEL 0187-55-2242</p> <p>ワインや焼酎の贈り物にもお薦め</p>	<p>木のぬくもりで未来を創造する 株式会社 黒澤製材所</p> <p>〒014-0354 秋田県仙北市角館町水ノ目沢 79-1 TEL 0187-53-2504 FAX 0187-53-2505</p>	<p>祭り装束 お祭りっ子御用達 虹う屋</p> <p>仙北市角館町いせ町(西宮家隣り) 電話(0187)53-2413 FAX(0187)53-2482</p>	<p>建設建築業・クレーン作業・宅地内支障木伐除作業</p> <p>石建工業 有限会社</p> <p>〒014-1112 秋田県仙北市田沢湖湯野西町204 TEL 0187 (44) 2046 FAX 0187 (44) 3821</p>
<p>電気設備工事施工 角館電工(有)</p> <p>角館町川原堂ノ沢26番地1 TEL 54-2432 FAX 54-1889</p>	<p>確かな技術を誇りに 株式会社 瀧神巧業</p> <p>〒014-0372 秋田県仙北市角館町小館54 TEL.0187-54-2711 FAX.0187-54-2710</p>	<p>秋田地酒、民芸品の店 樹の下やよしなり</p> <p>祭典用箱入お酒販売中</p> <p>角館町表町下丁 TEL0187-55-4133</p>	<p>土管人</p> <p>わいわい清酒</p> <p>TEL 0187-52-1703</p>	<p>自家栽培 石臼挽自家製分十割手打蕎麦処 そばきり長助</p> <p>住所 014-0324 秋田県仙北市角館町小人町28-5 電話 0187-55-1722</p>
<p>一般社団法人 仙北市農山村体験推進協議会</p> <p>〒014-0392 秋田県仙北市角館町中菅沢81-8 TEL 0187-43-2277 FAX 0187-55-1515</p>	<p>パソコンサポート infotech 有限会社 インフォテック</p> <p>ホームページ制作 フリーマガジン Sぶれっそ</p> <p>〒014-0369 角館町上菅沢458-1 0187(52)1144</p>	<p>マナーを守り楽しい釣りを!! 角館漁業協同組合</p> <p>〒014-0359 角館町北野62-2 TEL・FAX 0187-55-4877</p>	<p>LAWSON</p> <p>角館岩瀬店 55-1107 角館武家屋敷店 53-3707</p>	<p>建設機械・仮設・什器備品・保安用品 販売・レンタル・サービス 株式会社 ほくと</p> <p>本社 / TEL(0178)21-1513(代) FAX(0178)21-1514</p> <p>秋田支店 018-638-4755 横手支店 0182-33-5351 大館支店 018-678-7505 大館支店 0187-68-2080 大館支店 0188-48-1833 大館支店 0184-24-0117 大館支店 0188-30-3101 横手支店 0182-33-5351</p>
<p>東北労働金庫 大曲支店</p> <p>TEL 0187-63-4100</p>	<p>ALSOK秋田株式会社</p> <p>本社 TEL 018-888-2300 大仙支社 TEL 0187-63-8199</p>	<p>地酒販売。計り売りのお茶屋 鈴竹商店</p> <p>角館町中町9 TEL54-2201</p>	<p>角館でのご宿泊は ホテル フォルクローロ 角館</p> <p>ホテルフォルクローロ角館 TEL: 0187-53-2070</p> <p>和の心 角館 TEL: 0187-53-2774</p>	<p>宿泊・日帰り入浴・お食事 温泉 ゆぽぽ</p> <p>TEL0187-44-3333</p>
<p>中仙店</p> <p>秋田県大仙市下郷野字上中嶋51番地 TEL0187-52-0661</p>	<p>測量・調査 固定資産 情報処理 環境・防災 株式会社 北日本朝日航洋</p> <p>〒010-0914 秋田市保戸野千代田町14-12 TEL 018-863-8653 FAX 018-863-8973</p>	<p>Hitz 日立造船株式会社 Hitachi Zosen</p> <p>2024年10月1日に商号を「カナデピア株式会社に変更します」</p>	<p>有限会社 村田弘建築設計事務所</p> <p>代表取締役 村田 良太</p> <p>秋田市八橋三和町18番15号 TEL (018)823-4345 http://www.mrt-arch.co.jp</p>	<p>株式会社 松本印刷</p> <p>〒014-0041 秋田県大仙市大曲丸子町1-21 TEL 0187-63-1450 FAX 0187-63-1627</p>

協賛ありがとうございます

令和6年「角館のお祭り」大置山一覽表

観光
やまぶつけ
激突予定時間
9月8日開催

- 18:00 旧角館庁舎前
1 西勝楽町-駅前
- 18:30 角館観光タクシー前
2 横町-桜美町
- 19:00 クロサワ前
3 上新町-菅沢丁内
- 19:00 天理教仙北分教会前
4 大塚-東部
- 19:30 土間人前
5 中央通り-川原町
- 19:30 秋田銀行前
6 七日町丁内-西部
- 21:30 コマツ洋品店前
7 菅沢丁内-本町通り

佐竹北家上覧 飾山囃子コンクール

★9月8日10:00~17:30
★武家屋敷通り 旧石黒(恵)家

大置山

★神明社/梶原平三嘗石切
★薬師堂/能登復興祈願
能登・末森城の戦い
★立町/甚五郎 昇天の龍

特別協賛
●酒王秀よし 合名会社 鈴木酒造店
●コネクト ●JR東日本秋田支社
●菅原建設 ●秋田金融懇話会

曳山

7日① 16:00~ 角館總鎮守神明社 参拝
8日① 10:00~ 佐竹北家上覧
16:00~ 勝楽山成就院薬師堂 参拝
18:00~ 観光用やまぶつけ
9日① 10:00~ 勝楽山成就院薬師堂 参拝
町内の交通規制がありますのでご注意ください
曳山運行の妨げとなりますので駐車場をご利用ください

舞台

舞① 岩瀬町(立町十字路)
伝統芸能飾山囃子と秋田民謡
8日① 14:00~ ② 16:00~ ③ 18:00~
・日本 田中恵・高橋貞子・加賀谷修治
・藤原ミサ子社中
9日① 15:00~ ③ 18:00~
・日本 小野花子・大川あけみ 他・藤原ミサ子社中

舞② 横町(横町パーキング)
民謡・歌謡・新舞踊ショー
・藤川佳子・山川大介・藤原美幸
・大曲玉扇会
8日① 14:00~16:00 ② 19:00~21:00
9日① 14:00~16:00 ② 19:00~21:00

角館子ども園ミニ山曳廻し

★角館子ども園/武田信玄
★9月8日10:00~11:30
角館子ども園→駅通り→コマツ洋品店→神明社

設置場所/作者	人形外題	角館總鎮守 神明社	梶原平三嘗石切
人形作者 ・広目屋	人形作者 ・前田利家 ・佐々成政 ・奥村家福	人形作者 ・広目屋	人形作者 ・梶原平三景時 ・大庭三郎 ・侯野五郎 ・六郎太夫 ・梢
岩瀬町(立町) 甚五郎 昇天の龍	成就院薬師堂 能登・末森城 の戦い	勝楽山 能登復興祈願 能登・末森城 の戦い	勝楽山 能登復興祈願 能登・末森城 の戦い
人形作者 ・角館きかた	人形作者 ・前田利家 ・佐々成政 ・奥村家福	人形作者 ・広目屋	人形作者 ・梶原平三景時 ・大庭三郎 ・侯野五郎 ・六郎太夫 ・梢

江戸幕府三代将軍徳川家光は、上野・東叡山寛永寺に鐘樓堂を建立することになった。東西南北の四方の欄間に龍を彫るために日本全国から三名の工名工が決まるが、一人が見つかれない。寛永寺大僧正南光坊天海と知恵伊豆と呼ばれていた老中松平伊豆守が意見を求め、飛騨の名工甚五郎を推挙した。しかし、甚五郎は龍の姿がみたくもない。戸惑いながらも依頼を引き受ける。甚五郎は、龍を完成させるため寛永寺不忍池の弁天堂へまく作れるように毎日願掛けを行なった。満願の日、水面から突然弁財財天を乗せた龍が現れ、弁財財天は天に昇る龍を見せると明言し、龍と共に天へ昇っていく。この姿を見た甚五郎はその後「昇天の龍」を彫り上げるのであった。

石橋山の合戦に源頼朝が敗走したあとの鎌倉。梅の花咲く鶴ヶ丘八幡宮へ平家方の武将、大庭三郎・侯野五郎兄弟が参詣にやってくる。同じく梶原平三景時も参詣に訪れる。その青貝師(らでんの細工師)の六郎太夫が娘梢を連れ、金の入用があつて伝家の名刀を売りやってくる。大庭は梶原に刀の目利きを依頼。梶原は名剣であると保証するが、弟の侯野は試し切りを主張。二人の人間を重ねて斬る二つ胴で試すことになる。死罪の罪人が二人揃わないため六郎太夫が娘を家に帰らせて志願する。刀の銘から親娘を源氏方と知った梶原は、わざと六郎太夫を切り損ねて助ける。商談は破談。大庭兄弟は嘲笑して立ち去る。落胆する六郎太夫に梶原は自分も源氏に心を寄せる者で、石橋山で頼朝を助けたと告白。剣は紛れなき名剣で、その証に石の手水鉢を切つて刀の切れ味を見せる。おどろく親娘に梶原は、刀を自ら買い求める約束をして悠々と花道を引き上げる。

前田利家は、賤ヶ岳の合戦後、旧領の能登に加え、加賀二郡を与えられ、居城を七尾から金沢に移した。一方、賤ヶ岳の合戦に出陣しなかつた佐々成政は天正十二年(一五八三)四月に秀吉から越中一国を安堵されたが、翌年の徳川家康と秀吉が衝突した小牧・長久手の戦いでは徳川方に付く。成政は秀吉方となつた前田利家方の末森城を八〇〇〇の兵で包囲した。わずか一五〇〇の兵で末森城を守つていた前田家臣の奥村家福は金沢の利家に援軍を要請。秀吉から金沢守備を厳命されて利家が出陣を決定。佐々軍のほげしい攻撃から城を死守する家福は、援軍が来ることを信じ、戦いを続けた。落城寸前となつたその時、利家軍三五〇〇が到着。佐々軍を背後から急襲し、戦いを撃退した。その後も両軍の侵攻が繰り返されたが、翌年八月に成政は秀吉に降伏した。天正十三年(一五八五)前田家は、能登・加賀に加え成政の旧領越中三郡が与えられ七〇万石を領する北陸の盟主となつた。まさに末森城の戦いは、前田家のその後の加賀百万石の基盤となつた戦いである。

この線で折ってご利用ください。

角館のお祭り交通規制図

9/7(土)

全車両通行止め区間

- 黄色エリア 16:00~19:00
- 緑色エリア 16:00~22:00 ※岩瀬町・下新町
- オレンジエリア 16:00~26:00 ※下岩瀬町・岩瀬上丁・岩瀬本丁・岩瀬中丁
- ②:岩瀬浜丁(岩瀬北野線以南~JR高架下まで) 16:00~24:00

各曳山が角館總鎮守神明社参拝の為、南側へ集中することから北側から段階的に交通規制範囲を縮小いたします。曳山運行の妨げとなりますので、交通規制解除エリアへの路上駐車・停車はご遠慮ください。

角館祭りのやま行事 実行委員会現地本部

TEL.0187-55-2515
仙北警察署現地警備本部

神明社参拝 9月7日/16:00~

曳山・屋台ミニチュア展 角館郵便局ギャラリー 8月31日~9月10日

町内全域駐車禁止

工事のため、終日車両通行止め

WC 常設トイレ
臨時トイレ
身障者用トイレ
禁煙
タクシー乗り場
特設舞台

大置山設置力所
コンビニ
無料駐車場
有料駐車場 ①普通車500円
②中型車1,000円
③大型車2,000円



この線で折ってご利用ください。



交通規制図のお問い合わせ先

- 観光情報センター「角館駅前蔵」 TEL0187-54-2700
- 仙北市観光課 TEL0187-43-3352
- 仙北市商工会 TEL0187-54-2304
- 仙北市文化財課 TEL0187-43-3384

令和六年「角館のお祭り」曳山一覽表

曳山丁内名	正責任者	副責任者	囃子方	人形外題	作者	解説
岩瀬若者一同	尾形 祐平	坂本 純平 鈴木 孝史	祭 喜 会	源平合戦 屋島の戦い ・源義経・平宗盛	広目屋	「源平合戦」の一つである屋島を舞台とした戦い。宗華を極めた平家を率いるのは総大将の平宗盛。対する源氏軍を率いるのは戦の天才、源義経。一ノ谷の戦いから、平家追討を念頭に義経は平家の背後から奇襲を仕掛ける。これに驚いた平家は応戦をしながらも次々に海へと逃げていく。約三〇〇〇騎の平家に対し、義経は退くこと無くたたきついに攻め続け約一五〇騎での奇襲に成功し、勝利する。こうして、義経は平家滅亡へ手をかける。
西部若者	阿部 龍哉	伊澤 拓朗 草薨 友彦	秋 月 会	賤ヶ岳 武勇組討ち ・加藤虎ノ助清正・山路将監政国	文 伶	本能寺の変にて織田信長を討った明智光秀。山崎の戦いでその光秀も討たれた。織田家の後継者を決める「清洲会議」で、羽柴秀吉と柴田勝家の権力争いから始まった賤ヶ岳の合戦である。秀吉の家臣「賤ヶ岳七本槍」の一人、加藤清正と勝家の家臣、山路正国の一騎討ちは、組み合わせたまま崖を駆け落ちるほど荒々しくかつ、七本槍の活躍により勝利した秀吉は、清正に三千石の所領を与え、後に熊本城を創建した。
駅前若者	渡邊 亘	藤原 務 千葉 雄司	角 館 町 節山囃子手踊り会	菊壽草摺引 ・曾我五郎・舞鶴	葛谷流 駅前若者	和田義盛一門の酒宴の際、曾我五郎時致の草摺を舞鶴がつかんで引き留める場面。曾我五郎は、兄の曾我十郎と共に父の敵の工藤祐経を狙っているが、そこに兄の「十郎」だけが工藤に正面しているという知らせが入る。それを聞いて鐘をわきにひつ抱え、工藤の館に向かう五郎。その鐘を引く張つて五郎をとめる舞鶴。
菅沢丁内若者	荒川 大	佐藤 信一 平田 貞博	穂 月 会	釣鐘弁慶 ・武蔵坊弁慶	菅沢丁内若者	最澄が開いた延暦寺天台宗は、最澄の死後、山門派と寺門派に分かれて抗争していた。源義経と出会う前の武蔵坊弁慶が延暦寺で修行していたのはこの頃である。山門派の三井寺には、田原藤太秀郷が三上山の大仏で退治のお礼に、琵琶湖の龍神より頂戴し寄進した大きな釣り鐘があった。弁慶は山門派の鼻をあかそうと「提灯も釣り鐘も同じようなものだ」と鐘に荒縄をかけ、たった一人で延暦寺の頂に引き上げて世に怪力無双を見せつけたのであった。
本町通の	佐藤 直也	佐々木裕之 安藤 雄介	神代芸能保存 嬉 遊 会	国性爺合戦 紅流心 ・和藤内	広目屋	和藤内は大明国再建を果したため、姉の錦祥女が嫁いでいる甘輝將軍に助力を頼もうと獅子ヶ城へ向かう。錦祥女は夫を和藤内の味方にしよう説得できれば白粉を、できなければ紅を溶き、川に流して合図すると約束する。和藤内は石橋の上から川が赤く染まるのを見て、助力を得られぬと怒り、城へ乱入するが流れた紅は自害して流した血であった。妻の心を感じた甘輝は和藤内と共に軍を起し、打倒鞆鞆の決心を新たにす。
駒通の若者	齊藤 政範	半田 龍介 渡部 聡	愁 明 会	正札附根元草摺 ・曾我五郎時致・小林朝比奈	広目屋	鎌倉時代初期、曾我十郎祐成、曾我五郎時致兄弟が、父の仇である工藤左衛門祐経への仇討ちを果たすことに題材をとった物語。幼少期、領地争いの末に父を討たれた曾我五郎は、血気盛んな若者に成長した後、重鐘を引揚げ工藤左衛門の館に駆け出す。これを時期尚早と見た小林朝比奈は、曾我五郎を引きとめるため鐘の草摺を掴み力くらべとなる。
西勝察町若者	佐藤 和行	藤川 拓輔 菊田 香輔 三浦 耕輔	秋 月 会	一谷嫩軍記 須磨浦 ・熊谷次郎直実・無官大夫平敦盛	文 峰	一ノ谷の合戦にて、源氏方武將である熊谷次郎直実と息子小次郎直家は、共に出陣する。勝敗が決まり平家の敗北が進む頃、須磨浦では、平清盛の弟の子、笛の名手で無官職の平敦盛が馬に乗り船に落ち延びようとしていた。直実は、それを見つけた戦いを挑み、首を討とうとする顔を見れば、我が子と同じ年頃の若武者。地面に座り笛を握りしめ手を合わせる敦盛だがやむなく討つ。直実は、この悲しい後悔の念が残り、のちに浄土宗法然の下に出家し敦盛の死を弔ったのである。
桜美町若者	金谷 貫慈	柏木 文吾 茂木 勇哉 糸井龍太郎	節山囃子 弘道流 奏秋会	義経十本桜 大物浦 ・武蔵坊弁慶・新中納言知盛	葛谷流 桜雅会	九州へ船で向かうとする源義経一行は、大物浦で渡海船を営む廻船問屋に到着した。宿の主人渡海屋の銀平は、追手が来る前に一刻も早く船を出すよう義経に助言する。しかし、この銀平こそが壇ノ浦で死んだはずの平知盛だった。知盛は、白装束の鐘を着て幽霊に化け、義経を討とうとするがこれを見破っていた義経一行は反撃を加えて蹴散らす。死闘を繰り広げた知盛だが、もはやこれまでと感した武蔵坊弁慶は出家するよう敦珠を振りかざし知盛に渡そうとするも、義経一行へ立ち向かうとする知盛であった。
七日町丁内	根布谷 貴之	加藤 寛之 千葉 博幸 荒木 永昭	わらび座	菅原伝授手習鑑 車引の場 ・松王丸	小 松	管丞相の舎人梅王丸と斎世（ときよ）親王の舎人桜丸は、藤原時平への恨みを晴らすため、吉田神社へやってきました時平の牛車に立ちはたか。これを止めに見れたのは時平の舎人松王丸。今は敵味方に分かれてしまった三つ子の兄弟は互いに一歩も引かぬ状況。三人が争う内、牛車が壊れ中から時平が姿を現す。三兄弟は父の賀の祝いの後に決着をつけることを約束して別れてゆく。
中央通の	山谷 吉輝	小水田英之 高橋 寿史 鈴木 信哉	奏雅扇舞会	義経記 五條橋 ・牛若丸・武蔵坊弁慶	広目屋	乱暴者の武蔵坊弁慶は、太刀を一〇〇〇本、他人から奪う計画を立てる。九九九本集まりあと一本という時に、立派な刀剣を携えて笛を吹きながら歩く牛若丸（後の源義経）と出会う。武蔵坊弁慶が全力で襲撃すると、牛若丸はひらりと軽くその攻撃を交わして見事に返り討ち。それ以来、武蔵坊弁慶は生涯、牛若丸の主従の縁を結ぶのでした。
横町若者	岡田 光	佐藤 亮迪 千葉 太生	角館山本組	勸進帳 ・武蔵坊弁慶・富樫左衛門	横町若者	鎌倉幕府將軍に追われる源義経一行は北陸道安宅の関にて行く手を阻まれる。一行は山伏・強力に化けて関所を通ろうとするが、関守の富樫左衛門にはその情報が届いており、一行を怪しんで通さない。そこで義経配下の武蔵坊弁慶は機転を利かせ、巻物を取り出すとあたかも勸進帳であるかの様に装い読み上げ、山伏を演じきる。富樫は通行を許すが、部下が強力に化けた義経に疑いを掛けると弁慶は義経を金剛杖で打ち据え疑いを晴らすのであった。
山根谷地町 旭会若者	高橋 大	藤原 翼 小瀧 太郎	穂 月 会	軍神香破 霧の八幡原 ・武田信玄・上杉謙信	広目屋	戦国末期、甲斐の武田信玄に領地を追われた村上義晴らは越後の上杉謙信に救援を願う。謙信は毘沙門天の旗を掲げ信濃へ出陣する。信玄は高坂弾正と合流し、上杉軍を挟み討ちにすべく「啄木鳥戦法」を執行する。しかし、海津城の炊煙やくのの偵察により、戦略を察知した謙信は夜間に妻女山を下る。翌朝、霧の八幡原に突如布陣した上杉軍に信玄は驚く。戦いは戦国史上稀に見る激戦となり、斬りかかる謙信を軍配で受け止める信玄の姿は龍虎の一騎打ちとして後世へ伝わる。
北部丁内若者	武藤 和也	細川 正康 佐川 陽介	夢 燈 会	鎌倉三代記 ・佐々木高綱・三浦之助	北部丁内若者	鎌倉三代記は大坂夏の陣を題材にしたもので三浦之助は木村重成、高綱は真田幸村をそれぞれ暗示している。戦国の世は、結婚を誓った相手が敵になることも珍しくなかつた。夫に従えば、実の父を裏切ることになる。父にそむき、恋しい人の母を看病する時姫のもとに、瀕死の恋人三浦之助が戦場から戻ってきた。恋人は父を殺せといふ。虚々実々、地獄の戦場に生きる男と女のすさまじい駆け引きと切ない恋を描く。
上新町若者	叶 孔河	菅原 太陽 高関 大空 田川 礼	おやまばやし 清 友 会	義経十本桜 鳥居前 ・佐藤忠信・武蔵坊弁慶	葛谷流 上新町若者	堀川の館を後にして伏見稲荷まで来た義経たちは、ひとまず都を立ち退くことにする。追いついた静御前は供を頼むが、落ち行く旅に連れては行かれず、義経は形見として初音の鼓を与え、静を木に縛りつけて去る。そこへ来た鎌倉方の追手が静を捕らえようとするが、義経の家来佐藤忠信が現れて助ける。戻ってきた義経は忠信に自分の鐘と「源九郎義経」の姓名を与えて静の供を言いつけ、西国へ落ち行く。忠信は静を守護してその場を後にする。しかし忠信は、どうやら人間ではないようである。
下岩瀬町若者	畠山 勉	大石 道広 草薨 伸	神代芸能保存会 藤 原 組	歌舞伎十八番 暫 ・鎌倉権五郎景政・藤原武衡	廿町如月会	鶴岡八幡宮で藤原武衡の宣下の式の日、かねがね遺恨のある加茂次郎義綱に無理難題を押し付け、加茂次郎義綱たちを打ち首にしようとしたとき、「しばらく」という声が出て、鎌倉謙五郎景政が登場して人々の命を助ける。そして意気揚々と引き上げて行く。
東部若者	田口 雄介	菊地 貴志 八柳 康規	角館おやま囃子 櫻 義 會	歌舞伎十八番 勸進帳 ・武蔵坊弁慶	葛谷流 東部若者	市川宗家のお家芸として知られる歌舞伎十八番の中でも屈指の人気演目。七代目市川團十郎が初演したものが現在まで受け継がれている。主君義経を何とでも守ろうとする弁慶と、全て見抜きながらも弁慶の心情に討たれる富樫左衛門の緊迫感と人間味溢れる演目である。舞台の最後、弁慶は「飛び六法」で豪快に花道を退出する。「飛び六法」とは伊達や勇壮なさまなど誇張したり美化した荒事の要素を持つ所作で、天地と東西南北の六つの方向に手を動かすことに由来する。
大塚若者	工藤 秀行	高橋 徹 京野 巧 菊地 淳一	郷土芸能 角館節山囃子保存会	信貴山城の合戦 ・松永弾正久秀・明智光秀	大塚若者	天正五年、大和と河内の国境にある山城、信貴山城にて始まった戦い。松永久秀は織田信長に対して謀反を起すも苦戦を強いられる。この際、信長は久秀に茶器の古天明平蜘蛛を渡すよう求めるも「平蜘蛛と我首の二つは信長にお目にかけよう」とは思わぬと返答。これに憤慨した信長は明智光秀、筒井順慶、細川藤孝を出陣させる。最期を悟った久秀は天守に火を放ち平蜘蛛に弾薬を入れ、もろとも碎け散らしたと伝わっている。本能寺の変が起きたのはそれから5年後のことである……
山原町若者	青柳 宗康	渡邊 克徳 橋本 幹也 渡邊 孝徳	角館お山ばやし 扇 栄 会	奥州王 独眼竜政宗 ・伊達政宗	広目屋	伊達家の実権を握るや、二十三歳の若さで東北一の戦国大名にのし上がった独眼竜政宗。「もう二十年早く生まれていたら天下も狙えた」となご惜まれるこの多い武將でもある。辺境に生まれ右目の視力を失い、豊臣秀吉、徳川家康という天下人のいる、乱世から徐々に向かいつつある時代を生きたにもかかわらず、類まれな情報収集力と分析力、それにもとづく決断力を武器に瞬く間に奥州の大半を平らげ、人生の後半に至るまで天下取りの野望を持ち続けたのであった。